別　紙 2

【事後調査の結果】

調査項目：騒音

予測した事項　建設機械の稼働による建設作業騒音レベル

1　調査地域

計画区域内及びその周辺とした。

2　調査手法

(1)　調査事項

ア　予測した事項

建設機械の稼働による建設作業騒音レベル(L_{A5})とした。

イ　予測条件の状況

1)　建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置)

2)　工事用仮囲いの設置状況

ウ　環境保全のための措置の実施状況

(2)　調査時点

ア　予測した事項

E 工区の切盛土工及び F 工区の切盛土工(地盤改良)、トンネル工、切盛土工において、最も敷地境界に近づいて作業を行う時点とした。調査期日は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1　建設作業騒音レベルの調査期日

番号	工区	工種	調査期日
①	E 工区	切盛土工	令和 2 年 3 月 11 日(水)　7 時～18 時
②	F 工区	切盛土工(地盤改良)	平成 30 年 8 月 6 日(月)　7 時～18 時
③		トンネル工	平成 31 年 1 月 30 日(水)　7 時～19 時
④		切盛土工	令和元年 11 月 6 日(水)　7 時～18 時

注)作業時間の前後 1 時間を含む。

イ　予測条件の状況

1)　建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置)

予測した事項の調査期間と同様とした。

2)　工事用仮囲いの設置状況

予測した事項の調査期間と同様とした。

ウ　環境保全のための措置の実施状況

平成 30 年度及び令和元年度の工事の施行中の適時とした。

(3)　調査地点

ア　予測した事項

E 工区の切盛土工及び F 工区の切盛土工(地盤改良)、トンネル工、切盛土工において、最も敷地境界に近づいて作業を行う箇所とし、図 2-1(1)(p.41)に示す 2 地点及び図 2-1(2)(p.42)に示す 2 地点の計 4 地点とした。

イ　予測条件の状況

1)　建設機械の稼働状況(種類台数、規格、稼働時間、稼働位置)

E 工区の切盛土工及び F 工区の切盛土工(地盤改良)、トンネル工、切盛土工の工事区域内とした。

2)　工事用仮囲いの設置状況

E 工区の切盛土及び F 工区の切盛土工(地盤改良) 、トンネル工、切盛土工の工事区域周辺とした。

ウ　環境保全のための措置の実施状況

計画区域内及びその周辺地域とした。

図 2-1(1)　騒音調査地点図(平成 30 年度)

図 2-1(2)　騒音調査地点図(令和元年度)

(4)　調査方法

ア　予測した事項

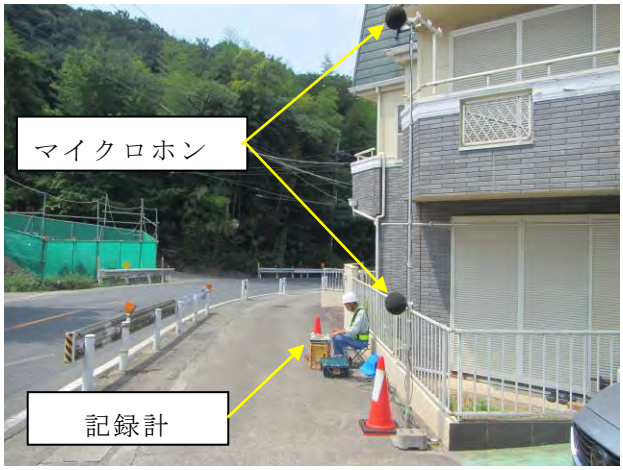
「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和 43 年 11 月 27 日　厚生・建設省告示第 1 号) に準拠した。測定時間は、E 工区の切盛土工では、原則として毎正時から 10 分間の測定を行った。F 工区のトンネル工、切盛土工(地盤改良)、切盛土工では、交通量が多い都道よみうりランド線沿道での測定であり、車両走行音を除外する必要があることから、測定値の精度を極力確保するため毎正時から 60 分間の測定を行った。なお、測定高さは、予測結果と同じ高さとし、E 工区の切盛土工、F 工区のトンネル工、切盛土工では地上 1.2m、F 工区の切盛土工(地盤改良)では地上 1.2m 及び 4.0m とした。

調査状況は写真 2-1 に示すとおりである。

E 工区の切盛土工　　写真番号①

撮　影　日:令和2年3月11日(水)
撮影位置:　図2-10(2)(p.70)参照

F 工区の切盛土工(地盤改良)　　写真番号②



撮　影　日:平成30年8月6日(月)
撮影位置:図2-10(1)(p.69)参照

写真 2-1(1)　現地調査状況写真

F工区のトンネル工　　写真番号③

撮　影　日：平成31年1月30日（水）
撮影位置：図2-10（1）（p. 69）参照

F工区の切盛土工　　写真番号④

撮　影　日：令和元年11月6日（水）
撮影位置：図2-10（2）（p. 70）参照

写真2-1（2）　現地調査状況写真

イ　予測条件の状況

1）　建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

現地踏査（写真撮影）及び関連資料の整理とした。

2）　工事用仮囲いの設置状況

現地踏査（写真撮影）及び関連資料の整理とした。

3）　環境保全のための措置の実施状況

現地踏査（写真撮影）及び関連資料の整理とした。

3　調査結果

(1)　事後調査の結果の内容

ア　予測した事項

①　E工区の切盛土工

建設作業騒音レベル調査結果は表 2-2 及び図 2-2 に示すとおりである。

建設作業騒音レベルは、13 時台、14 時台及び 15 時台に最大で 50dB であり、「環境確保条例」に定める指定建設作業騒音の勧告基準(80dB 以下)を下回った。なお、データ整理にあたり、鉄道騒音は除外した。

表 2-2　建設作業騒音レベル調査結果

令和 2 年 3 月 11 日(水)　　単位:dB

測定時間	騒音レベル（L_{A5}）	作業内容	備考
7:00～7:10	45	作業なし	
8:00～8:10	48	掘削	8 時 00 分作業開始
9:00～9:10	47	掘削	
10:00～10:10	48	掘削	
11:00～11:10	49	掘削	11 時 50 分作業中断
12:00～12:10	40	作業なし	
13:00～13:10	50	掘削	13 時 00 分作業再開
14:00～14:10	50	掘削	
15:00～15:10	50	掘削	
16:00～16:10	48	掘削	16 時 50 分作業終了
17:00～17:10	41	作業なし	

注)網掛け部分は、騒音レベルの最大値を示す。

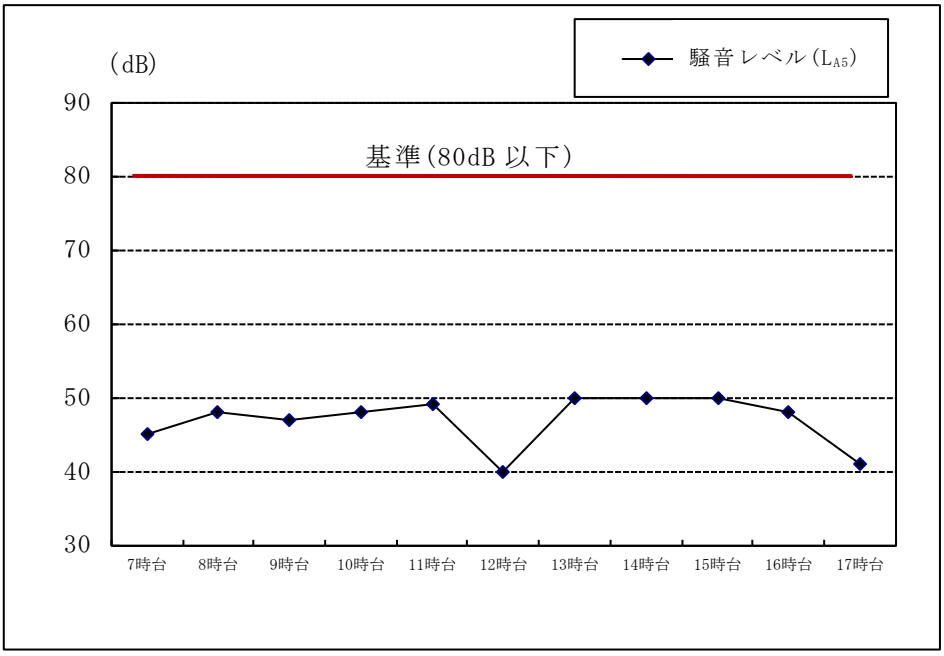


図 2-2　騒音レベル経時変化

② Ｆ工区の切盛土工（地盤改良）

建設作業騒音レベル調査結果は表 2-3 及び図 2-3 に示すとおりである。

建設作業騒音レベルは、地上 1.2m で 16 時台に最大 65dB、地上 4.0m で 16 時台に最大 67dB であり、「環境確保条例」に定める指定建設作業騒音の勧告基準(80dB 以下)を下回った。なお、データ整理にあたり、都道よみうりランド線を走行する車両からの騒音は極力除外した。

表 2-3　建設作業騒音レベル調査結果

平成 30 年 8 月 6 日(月)　　単位:dB

測定時間	騒音レベル（L_{A5}）		作業内容	備考
	地上 1.2m	地上 4.0m		
7:00～8:00	56	58	作業なし	
8:00～9:00	58	59	準備	8 時 00 分作業開始 8 時 30 分地盤改良開始
9:00～10:00	62	64	かくはん翼貫入、安定剤注入・かくはん、かくはん翼引き上げ	
10:00～11:00	62	64		
11:00～12:00	62	65		
12:00～13:00	61	63		
13:00～14:00	61	64		
14:00～15:00	62	64		
15:00～16:00	62	64		
16:00～17:00	65	67		16 時 50 分作業終了
17:00～18:00	60	61	作業なし	

注)網掛け部分は、騒音レベルの最大値を示す。

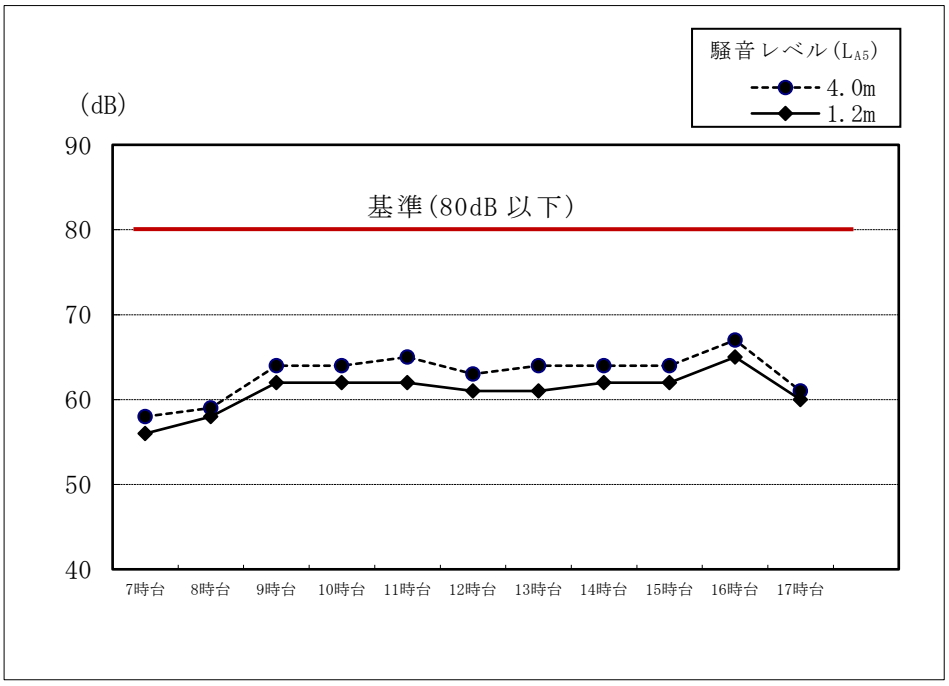


図 2-3　騒音レベル経時変化

③　Ｆ工区のトンネル工

建設作業騒音レベル調査結果は表 2-4 及び図 2-4 に示すとおりである。

建設作業騒音レベルは、12 時台に最大で 57dB であり、「環境確保条例」に定める指定建設作業騒音の勧告基準(80dB 以下)を下回った。なお、データ整理にあたり、都道よみうりランド線を走行する車両からの騒音は極力除外した。

表 2-4　建設作業騒音レベル調査結果

平成 31 年 1 月 30 日(水)　　単位:dB

測定時間	騒音レベル（L_{A5}）	作業内容	備考
7:00～8:00	50	掘削、積込、搬出	7 時 00 分作業開始
8:00～9:00	51	掘削、積込、搬出	
9:00～10:00	50	コンクリート吹付け	
10:00～11:00	49	コンクリート吹付け	
11:00～12:00	51	埋戻し	
12:00～13:00	57	掘削、積込、搬出	
13:00～14:00	49	掘削、積込、搬出	
14:00～15:00	55	コンクリート吹付け	
15:00～16:00	53	コンクリート吹付け	
16:00～17:00	49	支保工建込	
17:00～18:00	51	照明設備、片付け	17 時 45 分作業終了
18:00～19:00	48	作業なし	

注)網掛け部分は、騒音レベルの最大値を示す。

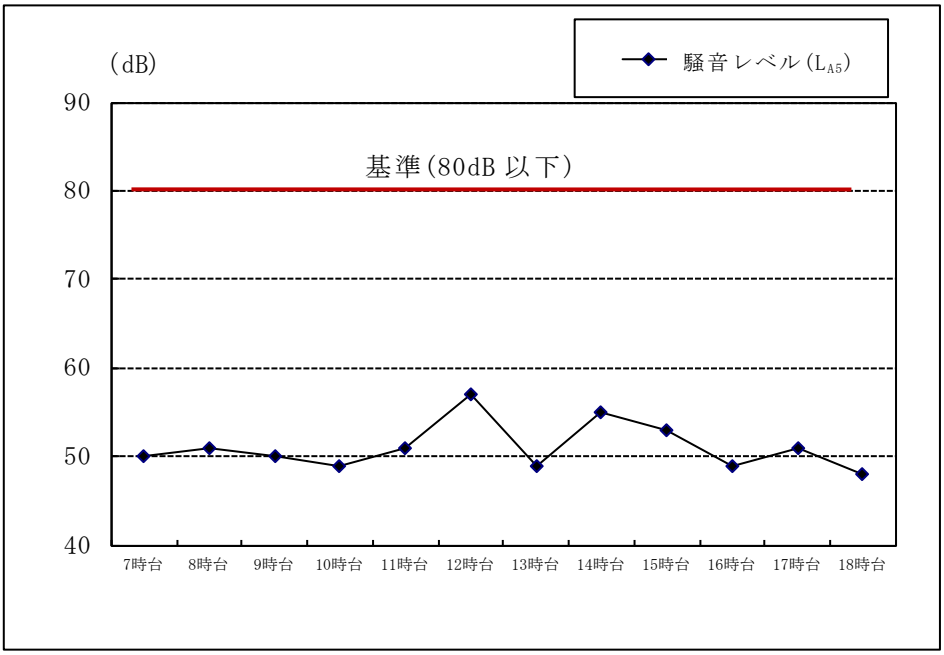


図 2-4　騒音レベル経時変化

④　Ｆ工区の切盛土工

建設作業騒音レベル調査結果は表 2-5 及び図 2-5 に示すとおりである。

建設作業騒音レベルは、9 時台、10 時台及び 16 時台に最大 67dB であり、「環境確保条例」に定める指定建設作業騒音の勧告基準(80dB 以下)を下回った。なお、データ整理にあたり、都道よみうりランド線を走行する車両からの騒音は極力除外した。

表 2-5　建設作業騒音レベル調査結果

令和元年 11 月 6 日(水)　　単位:dB

測定時間	騒音レベル（L_{A5}）	作業内容	備考
7:00～8:00	47	作業なし	
8:30～9:00	59	掘削、積込	8 時 30 分作業開始
9:00～10:00	67	掘削、積込	10 時 00 分作業中断
10:24～11:00	67	掘削、積込	10 時 24 分作業再開
11:00～12:00	64	掘削、積込	11 時 58 分作業中断
12:00～13:00	50	作業なし	
13:00～14:00	62	掘削、積込	13 時 00 分作業再開
14:00～15:00	64	掘削、積込	
15:00～16:00	66	掘削	
16:00～17:00	67	掘削	16 時 45 分作業終了
17:00～18:00	50	作業なし	

注)網掛け部分は、騒音レベルの最大値を示す。

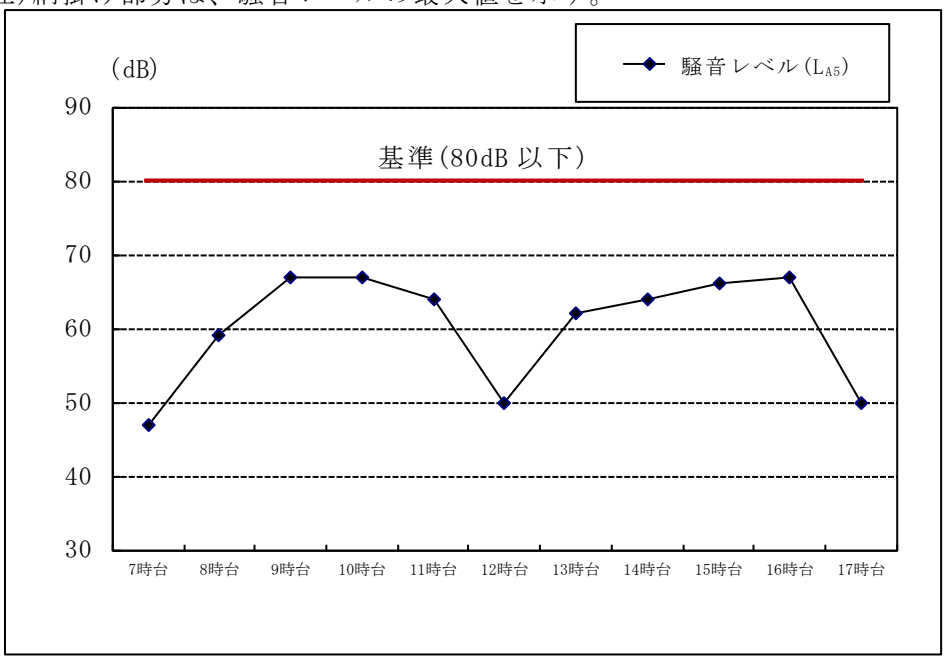


図 2-5　騒音レベル経時変化

イ　予測条件の状況

1)　建設機械の稼働状況（種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置）

①　Ｅ工区の切盛土工

建設機械の稼働状況は表 2-6、写真 2-2 及び図 2-6(1)～(2)に示すとおりであり、8 時～17 時の時間帯で稼働していた。

表 2-6　建設機械の稼働状況

令和2年3月11日(水)

工区	工種	建設機械	型式・規格	台数	低騒音型の指定の有無	稼働時間													
						6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
E工区	切盛土工	バックホウ	SK125SR(0.45m^3)	1	有														
		バックホウ	PC10UU-5(0.025m^3)	1	有														

写真番号⑤

撮　影　日：令和2年3月11日(水)
撮影位置：図2-10(2)(p.70)参照

写真 2-2　建設機械の稼働状況

図 2-6(1)　建設機械の稼働位置(E 工区切盛土工)

図 2-6(2)　建設機械の稼働位置拡大図(E 工区切盛土工)

② Ｆ工区の切盛土工（地盤改良）

建設機械の稼働状況は表 2-7、写真 2-3 及び図 2-7(1)～(2)に示すとおりであり、8 時～17 時の時間帯で稼働していた。

表 2-7　建設機械の稼働状況

平成30年8月6日（月）

工区	工種	建設機械	型式・規格	台数	低騒音型の指定の有無	稼働時間 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
F工区	切盛土工（地盤改良）	バックホウ	PC200-10(0.8m^3)	1	有	
		バラセメント車	12t	1	―	
		深層混合改良機	GI-130C(200kg)	1	有	

写真番号⑥

撮　影　日：平成30年8月6日（月）
撮影位置：図2-10(1)(p.69参照)

写真 2-3　建設機械の稼働状況

図 2-7(1)　建設機械の稼働位置(F 工区切盛土工(地盤改良))

図 2-7(2)　建設機械の稼働位置拡大図(F 工区切盛土工(地盤改良))

③　Ｆ工区のトンネル工

建設機械の稼働状況は表 2-8、写真 2-4 及び図 2-8(1)～(2)に示すとおりであり、7 時～18 時の時間帯で稼働していた。

表 2-8　建設機械の稼働状況

平成31年1月30日(水)

工区	工種	建設機械	型式・規格	台数	低騒音型の指定の有無	稼働時間 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
F工区	トンネル工	油圧ブレーカ	F12(500kg)	1	—							―	―	―					
		油圧ドリルジャンボ	DT1131-JP(210kg)	1	—											―	―		
		ホイルローダー	950H(2.5m^3)	1	有		―	―	―			―	―	―					
		ダンプトラック	10t	2	—		―	―	―		―	―	―	―					
		トラックミキサ	4.5m^3	2	—				―	―	―				―	―	―		
		トラック	2t	1	—											―	―		
		集塵装置	ADS-3000(3,000m^3/mim)	1	—		―	―	―	―	―	―	―	―	―	―			
		エレクター一体吹付け機	FTECVIC(12m^3)	1	—				―	―	―				―	―	―		
		コンクリートプラント	MR500B(0.5m^3/B)	1	—				―	―	―				―	―	―		
		トラッククレーン	4t	1	—										―	―	―	―	
		バックホウ	321D(0.8m^3)	1	有		―	―	―	―	―	―	―	―					
		バックホウ	314L(0.52m^3)	1	有						―	―							
		クローラクレーン	CC505-2(4.9t)	1	有										―	―	―		

写真番号⑦

掘削

積込、搬出

コンクリート吹付け

支保工建込

撮　影　日：平成31年1月30日(水)
撮影位置：図2-10(1)(p.69)参照

写真 2-4　建設機械の稼働状況

図 2-8(1)　建設機械の稼働位置(F 工区トンネル工)

図 2-8(2)　建設機械の稼働位置拡大図(F 工区トンネル工)

④　Ｆ工区の切盛土工

建設機械の稼働状況は表 2-9、写真 2-5 及び図 2-9(1)～(2)に示すとおりであり、8 時～17 時の時間帯で稼働していた。

表 2-9　建設機械の稼働状況

令和元年11月6日(水)

工区	工種	建設機械	型式・規格	台数	低騒音型の指定の有無	稼働時間 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
F工区	切盛土工	バックホウ	SH200-5(0.8m^3)	1	有				―	―	―	―	―	―	―	―			
		ダンプトラック	10t	1	―				―	―	―	―	―	―	―	―			

写真番号⑧

撮　影　日：令和元年11月6日(水)
撮影位置：図2-10(2)(p.70参照)

写真 2-5　建設機械の稼働状況

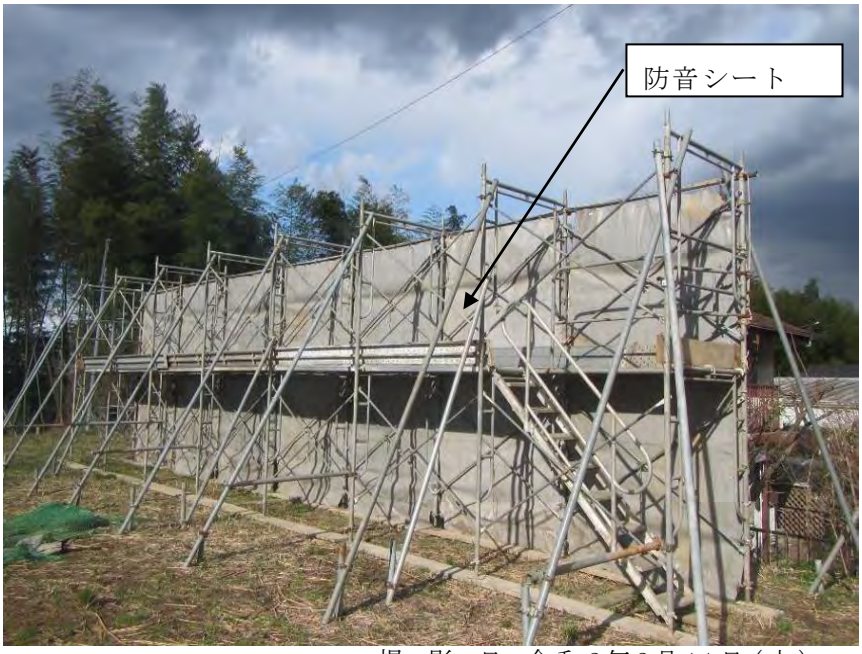
図 2-9(1)　建設機械の稼働位置(F 工区切盛土工)

図 2-9(2)　建設機械の稼働位置拡大図(F 工区切盛土工)

2) 工事用仮囲いの設置状況

E 工区では、住居近くの敷地境界付近に高さ 5m の防音シートを設置した。また、F 工区では、住居近くの敷地境界付近に高さ 2m の工事用仮囲い(鋼板製)を設置した。なお、トンネル工では、坑口に防音シートを設置した。

E 工区の切盛土工　　写真番号⑨



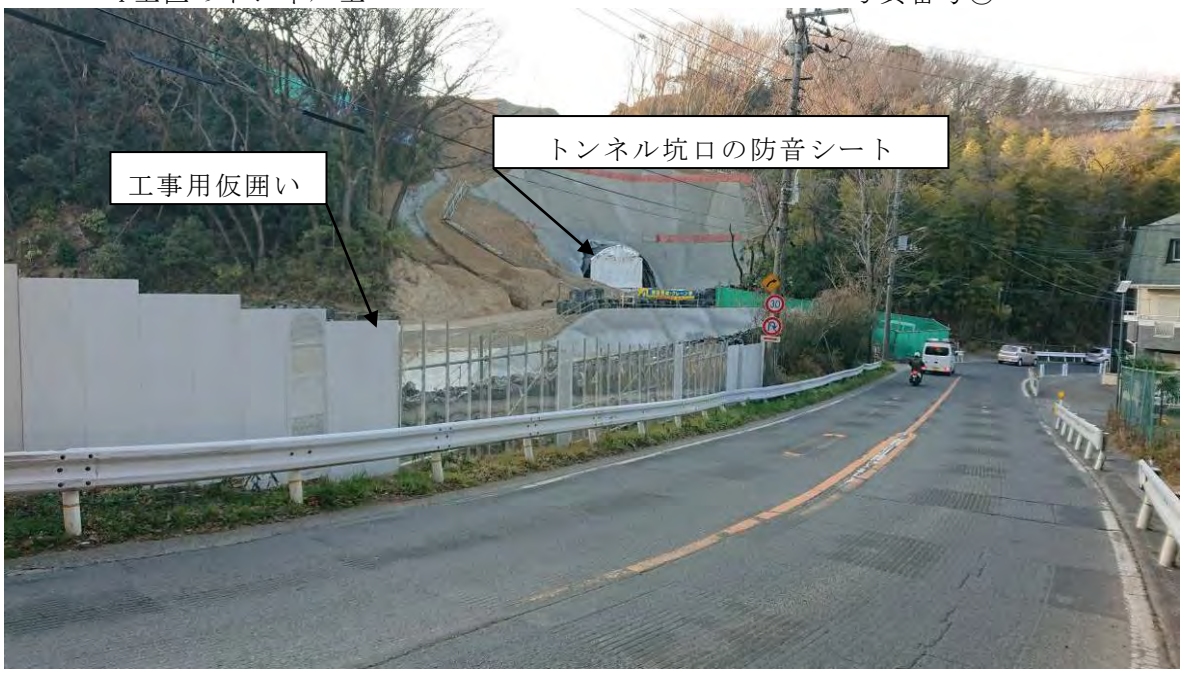
撮　影　日:令和2年3月11日(水)
撮影位置:図2-10(2)(p.70参照)

F 工区の切盛土工(地盤改良)　　写真番号⑩

撮　影　日:平成30年8月6日(月)
撮影位置:図2-10(1)(p.69参照)

写真2-6(1)　工事用仮囲いの設置状況

F工区のトンネル工　　写真番号⑪



撮　影　日：平成31年1月30日（水）
撮影位置：図2-10(1)(p.69)参照

F工区の切盛土工　　写真番号⑫

撮　影　日：令和元年11月6日（水）
撮影位置：図2-10(2)(p.70)参照

写真2-6(2)　工事用仮囲いの設置状況

ウ　環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 2-10(1)～(2)に示すとおりである。

平成 30 年度の工事における騒音に関する苦情はなかった。令和元年度の工事における騒音に係る苦情件数は 1 件であり、内容は表 2-11 に示すとおりである。この苦情に対しては、環境保全のための措置について実施内容を説明し、工事内容を事前連絡することにより理解を得た。

表2-10(1)　環境保全のための措置の実施状況

評価書記載事項	実施状況
・低騒音型の建設機械、工事用車両及び工法を採用し、発生する騒音の低減に努める。	・工事の施行にあたっては、超低騒音型・低騒音型建設機械に指定されている建設機械（バックホウ　型式:PC200-10、SH200-5等)を採用した(写真2-7(1)～(2)参照)。
・建設機械について管理責任者を設置し、建設機械を計画的・効率的に稼働させるなどの適正管理や、アイドリングストップ等を徹底することにより、発生する騒音の低減に努める。	・建設機械の運用について、工事施工会社と会議を毎週行い、建設機械を計画的・効率的に稼働させるなどの適正管理やアイドリングストップ(写真2-8(1)～(2)参照)等を徹底した。
・敷地境界に工事用仮囲い（高さ 3～5m）を設けるなどの騒音対策を講じる。	・人家が近接する工事区域では、敷地境界付近に高さ2m及び3m(鋼板製)の仮囲いを設置し、騒音対策を講じた(写真2-6(1)～(2)及び写真2-9(1)～(2)参照)。
・工事区域内に必要に応じて防音シートを設置し防音対策を講じる。	・E工区の人家が近接する工事箇所には、高さ5mの防音シートを設置した(写真2-6(1))。また、F工区のトンネル工では、民家側に面する坑口に、防音シートを設置して、極力騒音の影響を低減した(写真2-6(2)参照)。

注)評価書記載事項については「事業計画の変更について」(平成23年7月)の内容である。

表2-10(2)　環境保全のための措置の実施状況

評価書記載事項	実施状況
・工事の施工にあたっては、住居に近い箇所での作業時間は、原則として月曜日から金曜日の朝 8 時から夕方 5 時まで（12 時台を除く)とし、土曜日及び休日は工事を実施しない。また、住居から離れている箇所での作業時間は、原則として月曜日から土曜日の朝 8 時から夕方 5 時まで（12 時台を除く)とし、休日は工事を実施しない。	・住居に近い箇所での作業時間は、施行計画に基づき、原則として月曜日から金曜日の朝8時から夕方5時まで（12時台を除く)とし、土曜日及び休日は工事を実施しなかった。また、住居から離れている箇所での作業時間は、施行計画に基づき、原則として月曜日から土曜日の朝8時から夕方5時まで（12時台を除く)とし、休日は工事を実施しなかった。なお、平成30年度のトンネル内の工事にあたっては、近隣住民説明会の中で、昼夜作業することを説明し、工事は最大で朝6時から夜11時まで実施した。
・各工事が一地域に集中したり、時間的に同時期に集中して稼働することを未然に防止するために、計画区域を 6 工区に分けた工事工程を計画する。また、各工区では、複数の工事が重複して施工されることを極力回避するために、段階的に工事を実施する。複数の工事が重複する場合は、互いに十分距離を確保して作業を行う。	・工事は施行計画に基づき、計画区域を6工区に分けて施行している。また、騒音の低減のため、工事施工会社と会議を毎週行い、工事の重複がないよう調整して工事を実施した。さらに、複数の工事が重複する場合は、互いに十分距離を確保して作業を行い、極力、騒音の低減に努めた。
・工事用車両について管理責任者を設置し、工事用車両の計画的・効率的な運行、運転者への制限速度の厳守、アイドリングストップ等の適正管理を徹底し、発生する騒音の低減に努める。	・工事用車両の運用について、工事施工会社と会議を毎週行い、工事用車両の計画的・効率的な運行、運転者への制限速度の厳守、アイドリングストップ等の適正管理を徹底した。また、計画区域内の工事用車両の走行速度を20km/hとした(写真2-10(1)～(2)参照)。
・工事用車両の走行時間は、原則として朝 8 時から夕方 5 時まで(12 時台を除く)とする。なお、特定の時間帯に走行台数が集中しないよう運行時間の分散化を図り、発生する騒音の低減に努める。	・工事用車両(4t車以上)の走行時間は、朝8時30分から夕方5時まで（12時台を除く）を厳守している。また、特定の時間帯に走行台数が集中しないよう運行時間の分散化を図り、発生する騒音の低減に努めた。

注)評価書記載事項については「事業計画の変更について」(平成23年7月)の内容である。

表2-11　騒音に係る苦情の内容と対応状況

苦情の内容	対応した内容
・重機からの音がうるさい。	・工事内容と重機を移動する際は、建設機械の出力を落とし、極力スピードを抑えて工事を実施する等の騒音低減対策についてきめ細かに説明するとともに、当該箇所で工事する場合は、当日の朝に工事内容を説明することを約束して理解を得た。また、人家側に高さ5mの防音シートを設置することにより、極力影響が出ない対策を実施することを説明し、これを実施した。

バックホウ（型式:PC200-10）　　写真番号⑬

騒音対策型のラベル

撮　影　日:平成 30 年 8 月 6 日(月)
撮影位置:図 2-10(1)(p. 69)参照

写真 2-7(1)　低騒音型建設機械の使用状況(平成 30 年度)

バックホウ（型式:SH200-5）　　写真番号⑭

騒音対策型のラベル

撮　影　日:令和元年 11 月 6 日(水)
撮影位置:図2-10(2)(p. 70)参照

写真 2-7(2)　低騒音型建設機械の使用状況(令和元年度)

写真番号⑮

撮　影　日:平成 30 年 9 月 18 日(火)
撮影位置:図 2-10(1)(p.69)参照

写真 2-8(1)　アイドリングストップの喚起状況(平成 30 年度)

写真番号⑯

撮　影　日:令和元年 5 月 16 日(木)
撮影位置:図 2-10(2)(p.70)参照

写真 2-8(2)　アイドリングストップの喚起状況(令和元年度)

写真番号⑰

撮　影　日：平成30年6月5日（火）
撮影位置：図 2-10(1)(p.69)参照

写真2-9(1)　工事用仮囲い(高さ3m)の設置状況(平成30年度)

写真番号⑱

撮　影　日：令和元年5月16日（木）
撮影位置：図 2-10(2)(p.70)参照

写真2-9(2)　工事用仮囲い(高さ3m)の設置状況(令和元年度)

写真番号⑲

撮　影　日：平成30年6月5日（火）
撮影位置：図 2-10(1)(p.69)参照

写真 2-10(1)　工事用車両の速度厳守の看板設置状況（平成 30 年度）

写真番号⑳

撮　影　日令和元年5月16日（木）
撮影位置：図 2-10(2)(p.70)参照

写真 2-10(2)　工事用車両の速度厳守の看板設置状況（令和元年度）

図 2-10(1)　写真撮影位置(平成 30 年度)

図 2-10(2)　写真撮影位置(令和元年度)

(2)　評価書の予測結果と事後調査の結果との比較検討

予測結果と事後調査結果の比較は、表 2-12 に示すとおりである。

E 工区の切盛土工の建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は、最大値が 50dB で予測結果の 73dB を下回った。F 工区の切盛土工(地盤改良)の建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は、最大値が地上 1.2m で 65dB、地上 4.0m が 67dB で、予測結果の 1.2m で 70dB、地上 4.0m で 75dB を下回った。F 工区のトンネル工の建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は、最大値が 57dB で予測結果の 77dB を下回った。F 工区の切盛土工の建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は、最大値が 67dB で、予測結果の 73dB を下回った。また、各工種で「環境確保条例」に定める指定建設作業の騒音の勧告基準(80dB 以下)を下回った。

各工区で予測結果を下回った理由は、近隣の民家への影響の低減を図るため、建設機械の出力を極力抑えて施行したことが考えられるほか、各工種で以下の理由が考えられる。

E 工区の切盛土工では、調査地点と最も近い建設機械との距離が 100m であり、予測で想定した距離の約 10m より遠い箇所での稼働であったためと考えられる。F 工区の切盛土工(地盤改良)では、調査地点と最も近い建設機械との距離が 32m であり、予測で想定した距離の 10m より遠い箇所での稼働であったためと考えられる。F 工区のトンネル工では、調査地点と最も近い建設機械との距離が 60m であり、予測で想定した距離の 24m より遠い箇所での稼働であったためと考えられる(トンネル坑口位置の変更は、「事業計画の変更について」(平成 29 年 9 月)で行った)。F 工区の切盛土工では、近隣の民家への影響の低減を図るため、建設機械の使用台数を少なくしたことが考えられる。

表 2-12　予測結果と事後調査結果の比較

単位:dB

工　区	工種	予測結果				事後調査結果				基　準
		建設機械	規格	台数	騒音レベル L_{A5}	建設機械	規格	台数	騒音レベル L_{A5}	
E工区	切盛土工	バックホウ	1.0m^3	1	73	バックホウ	0.45m^3	1	50	80以下
		バックホウ	0.35～0.6m^3	1		バックホウ	0.025m^3	1		
		ダンプトラック	10t	1						
		ブルドーザ	15t	1						
F工区	切盛土工(地盤改良)	ブルドーザ	15t	1	70(地上1.2m) 75(地上4.0m)	バックホウ	0.8m^3	1	65(地上1.2m) 67(地上4.0m)	
		ダンプトラック	10t	1		バラセメント車	12t	1		
		粉体噴射攪拌機	60～100kg	1		深層混合改良機	200kg	1		
		ラフタークレーン	4.8t	1						
	トンネル工	軟岩用トンネル掘進機	6.0～6.4m	1	77	油圧ブレーカ	500kg	1	57	
		ドリルジャンボ	150kg級	1		油圧ドリルジャンボ	210kg	1		
		トラクターショベル	2.3m^3	1		ホイルローダー	2.5m^3	1		
		ダンプトラック	10t	2		ダンプトラック	10t	2		
		トラックミキサ	4.4～4.5m^{3}級	1		トラックミキサ	4.5m^3	2		
		トラック	2t	1		トラック	2t	1		
		集塵装置	360m^3/min	1		集塵装置	3,000m^3/mim	1		
		コンクリートポンプ車	90～110m^3/h	1		エレクター一体吹付け機	12m^3	1		
		吹付プラント設備	25m^3/h	1		コンクリートプラント	0.5m^3/B	1		
		トラック	4t	1		トラッククレーン	4t	1		
		バックホウ	0.35～0.6m^3	2		バックホウ	0.8m^3	1		
						バックホウ	0.52m^3	1		
						クローラクレーン	4.9t	1		
	切盛土工	バックホウ	1.0m^3	1	73	バックホウ	0.8m^3	1	67	
		バックホウ	0.35～0.6m^3	1		ダンプトラック	10t	1		
		ダンプトラック	10t	1						
		ブルドーザ	15t	1						

注）1.事後調査結果の騒音レベルは、測定結果の最大値を示す。
2.基準は「環境確保条例」に基づく指定建設作業の騒音の勧告基準を示す。
3.E工区切盛土工、F工区切盛土工及びトンネル工の予測結果は「事業計画の変更について(平成19年9月)」によるものである。
4.F工区切盛土工(地盤改良)の予測結果は「事業計画の変更について(平成23年7月)によるものである。